



2025年度 3学年通信

Be Ambitious

「学年通信」は、生徒の皆さんが読み終わった後、必ず保護者の方に渡してください

「その道」

学年主任 野村 明日香

残暑が厳しい中でも朝夕と涼しい風が頬を撫で、秋の気配を感じます。芸術鑑賞会で落語家・柳家喬太郎さんの話芸を楽しみました。「この道に好んで入ったものの、何度も辞めたいと思った。けれど辛抱して続けることで得られるものがある。一生懸命やっても報われるとは限らない、人生は楽しいことばかりではないが、続けていれば楽しいこともある」と語られた言葉が印象的でした。

「この道」という言葉から、茶道部部長・大木さんの文章を思い出しました。「茶道部がお稽古前に唱える利休居士道歌『この道に入らんとする心こそ我身ながらの師匠なりけれ』は『その道に入ろうと思う心こそ、自分自身の師匠である』という意味です。茶道の所作にはすべて意味、理由があると講師の先生にはよく言われていました。一つ一つ丁寧にいき、何のためにその動作を行うのか。それを考えながらお点前をするとは自分の心との向き合いです。分からないから誰かに教えてもらうということだけでなく、自分なりに学んで深めていくこと、もっとちゃんと理解したいという気持ちが自分の成長につながると思います。高校3年間、茶道部として過ごした時間は技術の上達や所作を身に付けるということだけでなく、自分自身の成長の時間でもありました。茶道を通して、上達したい、学びたいという気持ちを持ち続けることの大切さを実感しました。利休居士道歌のこの教えは今も私の中にあり、これからもどんなことでも真剣に向き合う姿勢を忘れずに過ごしていきたいです。」と結ばれています。「その道に入らんとする心」が大切です。

10月の主な行事予定

- 10月 1日(水) 後期開始 服装調整期間(～11/30)
2日(木) ▲カセット授業
4日(土) 全統記述模試
6日(月) 5分短縮授業
8日(水) ⑤⑥授業公開 神無月文化祭(放課後) 午前①～④ 5分短縮授業、昼 SHR 清掃
10日(金) ▲カセット授業 11日(土) 進研・駿台記述模試
15日(水) ▲カセット授業
17日(金) PTA 登校時マナーアップ運動(3年) 18日(土) 土曜講座
21日(火) 献血(希望者) ▼カセット授業
24日(金)・26日(日) 大学別模試(希望者)
27日(月) フードドライブ②(～11/7)
28日(火) 植花作業(放課後)
31日(金)～11月1日(土) 進研・駿台共通テスト模試



外側と内側(アンサーソング)

3年6組担任 土屋雄介



甲府東高校に赴任して6年6カ月が経つというのに、まだ生活リズムに慣れていない。この6年6カ月はこれまで以上に長く感じた。変わらない環境はそれだけで惰性となり、時間の経過を減速させる。また、変わらない環境であるが故に気づくことができないことがたくさんある。

4月上旬、土曜日の部活終わりにご飯を食べに行った。エアコン故障中の車内はすでに暑く、汗が纏わりつく感じがいかにも気持ち悪い。駐輪場脇の桜並木も恒例化し、感動することを忘れていた。「いつか見られなくなるのだからもっと大切にしろ」と綺麗に舞ってくれているにもかかわらず。進路室からグラウンドまでは東側出口を使って1分足らず…要領のよさだけは相変わらず一人前だ。自動販売機の業者が変わり、貯めたポイントは使わず仕舞い。3年6組の教室…どうして右側の掲示板が狭い?噂によると、北館だけらしい。トイレの水圧…弱。

今まで勤務した学校はどうだったかな…振り返るともう教員生活17年目である。それでもその『内側』を知っている高校は意外と少ない。自分が高校生の時は他校との違いを考えることが少しだけあった。X高校の修学旅行海外かあ…いいなあ。毎日お笑いだけを探求し、部活動もやっていないものだから、課されたことはちゃちゃっとこなしていた。もし、もう一度高校生活を送れるなら、もっと今だけを追い求めて、夏休みの課題を冬頃やってみたい。

私が『内側』も知っている(つもり)の高校は母校も含めて今のところ2校。ともにその学校ならではの雰囲気や特色があった。甲府東高校はその『内側』を大人の立場で学習中であるが、結局はまだ2校目である。今のところの印象は簡単にいうと「もっと良くなる」。コロナを境に朝SHRへ変化したが、昼SHRだと担任として朝にゆとりができる。蒼龍祭においても全力で取り組む様子がとても頼もしいが、いわゆる先人のマネとなるような型にはまった部分(ブロック発表とか)を変化させていくエネルギーは、残念ながら不足している。でも20年以上前より、他者に優しく、周りの人を応援できる生徒たちが多いことは間違いなく、同窓生として誇りに思う。

それでも、「慣れ」と「諦め」により悪い部分が見えなくなってしまっているのかもしれない。私だけはないと思うが、何事にも言い訳をしてしまったり、外へ原因を求めたり、「どうせ」と口にしたりする人は、応援したい気持ちを衰退させる。遠い存在であれば、「一方的にSNSで知っているあの、アハハ」で終わるが、近ければ近いほど、その過程に目が向くようになる。これから学生生活の中では集大成を迎えることになる3年生。部活動、合唱、長縄…一部の人を除き、もうチャレンジすることはないだろう。いや、長縄は全員か。そう、もう二度と経験できないことがすでに存在するのである。まだ18歳ではあるが、後悔していることがたくさんあるのかも。だとするならば、これから先の人生、いかなることも「これで最後かも…」と大切にすることはどうだろう。結果も大事かもしれないが、我々大人がもう二度と経験できないことにこれからはじめて出会う諸君が心底羨ましい。若さに誇りを持ち、様々なチャンスをキャッチできるセンスを磨き続けてくれることを期待している。私は6組諸君がつけてくれた『全ての応援団長』として、みんなの何気ない優しさに気がつけるよう精進します。(最後に、17年で2校目って多い方かと思っていたら、上には上?下には下?がいました。ね、原田先生)

って、第4号のアンサーソングを書いていた前置きが長くなってしまったのですが、今月の当番の土屋です。3年生の9月ですから、「通信を読んでいる暇があったら現代文解くわ」と聞こえてきそうで、少し気にします。読者対象は受験生ですから、自分の受験時代のお話を題材に筆者の気持ちを問題にでもしましょうか。

【高3時の進路選択時、好きな科目の数学・英語・地理・音楽の何かを学びたいと思っていました。ところが今のように進路講話での職業体験だの、そもそもスマホで情報収集だのという時代ではありません。とりあえず(a)ヤミクモに受験し、合格した中から数学を学ぶ道を(b)センタクしたわけです。何も知らない私は「数学科なんて高校の数学の延長でしょ。理学部と理工学部の数学って何が違うのよ、プンプン」的なノリで理学部数学科に進学したのです。ところが、(ア)4月の最初の授業で私の浅はかな考えは見事に否定され、はやくも留年の危機を迎えます…。

あら、もうスペースがない。えっと、大学院卒業して、教員採用試験受かって、楽しい毎日です。】(2021 3学年通信抜粋)

問1 (a)ヤミクモ (b)センタク を漢字で書きなさい。

問2 破綻部(ア)の時の筆者の気持ちを400字以内で説明しなさい。